

Ⅱ 学校教育目標及び教育方針

1. 学校教育目標、学校経営計画

白山市の教育

健康・元気・笑顔

(白山市教育大綱)「ふるさと白山市を愛し、誇りに思える人づくり」

- ①郷土愛を育む教育の推進
- ②確かな学力の形成と教育環境の整備
- ③健康な心と体を育む教育の充実

(白山市教育委員会指導の重点)SDGs 未来都市にむけた取組の推進を通して、基本理念「ふるさと白山の未来を拓くひとを育てる～地域とともに～」を実現するための学校教育基本方針「感性を豊かにする教育」を進める。

1 経営理念

「そろえる、やりきる、たしかめる」で、笑顔いっぱい、みんなが元気な学校づくり
～子供も先生も学校を楽しもう チーム北陽～

急速に変化して、予測困難な時代において、一人一人が持続可能な社会の担い手として、新たな価値を生み出し、たくましく「生き抜く力」が必要である。そのために、子供たちには、様々な力や心が必要であり、それらは学校の学びや体験を通して多くの感動や喜びを味わい、教師や友達など多くの人との関わりを通して社会の中で生きる基本を学んでいく。学校は一人の社会人として自立していくためには欠かせない教育の場である。そんな場としての学校には、学校が大好きで元気な子供たち、笑顔と活力にあふれる教師たちがいることが大切である。つながり高め合う中で、たくましく未来を切り拓いていく子供の育成を目指して、「笑顔いっぱい、みんなが元気な学校づくり」を目指し教育活動を進める。

①学校教育への自負と誇り

学校は、子供たちの成長に大きく関わり、子供たちを社会に送り出す基盤作りをしている。私たちは学校教育に自負や誇りを持っていきたい。

②大人もつながり、高め合う

教育活動を進めるにあたり、協力・協働による組織的な学校運営が大切である。学年の横のつながりと6年間を見通した縦のつながりを意識し、主任を十分に機能させ、取り組みの焦点化を図る。

③凡事徹底

朝元気に登校し、学校が終われば「今日も楽しかった。学校に来て良かった。」と充実感を持って家路につくような、当たり前前の学校生活が行われることが何より大切である。そのためには、小さなことでも取りこぼすことなく、当たり前前のことを大事にする。

④率先垂範

教育とは人が人を育てることである、子供たちは関わる多くの人から影響を受ける。教師の姿そのものが一番の教材と言え、その意味で子供の範となる姿を見せることが大事である。

2 教育目標

「つながり、高め合う北陽っ子」

新しい時代に必要となる資質・能力の育成のため、ひと・もの・こととつながり、自らを高める「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。

3 学校経営目標

ちえだし
たまご

まえむき
たまご

きびきび
たまご

(1) めざす学校像

- ①一人一人が大切にされ、豊かな情操が育まれる学校
- ②学びあい、かかわりあいながら確かな学力が身につく学校
- ③子ども、教師、保護者が互いに信頼し、成長できる学校

(2) めざす児童像

- ①「知恵を出し合い高まる子」 考えることを楽しむ子・「伝えたい・聴きたい」思いにあふれる子
- ②「前向きな子」 自分からできる子・やさしくかかわる子

③「きびきび動く子」 めあてを持って動ける子・心も体も元気な子

(3) めざす教職員像

①温かさと厳しさを持って児童理解に努める教職員

②全児童の学力向上に取り組む教職員

③基本的な生活・生活習慣の定着に取り組む教職員

④保護者や地域、関係機関との連携を深める教職員

⑤職員同士が互いにつながり高め合う教職員

自らの役割と専門性を最大限に発揮し、チームとしての協働に誇りを持つ教職員

⑥計画的・効率的に業務を遂行する教職員

4 今年度の重点目標

(1) 組織的な学校運営 “そろえる、やりきる、確かめる” で教師力の向上を図る

「確かめることでやりきっていく」

①「チーム北陽・チーム学年」

そろえることで、教師個人の力に頼らず、全ての子どもに力を付けていくことができる。そろえることが、子ども、保護者の安心感につながる。

R P D「そろえる」→C見える化して「確かめる」→D「やりきる」→A新たに「そろえる」

②「危機管理」報告・連絡・相談等の情報の迅速かつ確実な共有化、チームで動く。

外に出るものは起案・決裁後に行う。外部連携を進める(助けてもらう)。

<危機管理のさしすせそ>

最悪を想定し、慎重に、すばやく、誠意を持って、組織で対応

<報告はソーセージ>・・・「情報は爆弾」

早く、正確に、事実を報告

・外部連携を進める(県・市教育委員会、県市教育センター、児童相談所・市子ども相談室、市発達相談センター・特別支援学校専門相談、警察、医療機関)

③「人材育成」

・ミドルリーダーの育成

分掌主任会議・学年主任会議による組織的学校運営を進める。

運営会議→分掌会議→職員会議→学年会議

校長会議→運営会議→学年主任会議

各主任が取り組みを焦点化し、リーダーシップを発揮する主任の機能化を進める。見通しを持った分掌会議、準備をして会議に臨むことで効率化を図る。

「起案システム」により迅速かつ効率的な運営を目指す。

分掌副主任で若手を育てる。

・「学び続ける教師」若手もベテランも、ともに育つ学校

「若手早期育成プログラム」のもと、計画的に、日々の教育活動の中で若手を育てる。若手Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期の月1回の「北若ゼミ」、Ⅰ期・Ⅲ期対象の短時間相談タイム、全員で学ぶ全体研を開催。

「チーム学年」複数の目で細やかに子どもを見取り、毎週の学年会議で効率的・効果的に教材研究を行う。「学年内一部教科担任制」で教材研究の効率化を進めるとともに、子どもに力を付けていく。校内研修、相互授業参観、プチ研修で日常的に若手を育てる。

④「教育の質を落とさず、子どもと向き合うための働き方改革」

目標：時間外勤務時間が月80時間超えゼロ・月平均45時間以下

そのために、「やめる・へらす・かえる」で効果的・効率的な教育活動を進める。

5・6年生の一部教科担任制、要録電子化・留守番電話(18:30)・日課変更と「終会后すぐ下校」で子供の安全と教師の教材研究の時間を確保・整理整頓・ペーパーレス職員会議・実施後即反省&次年度起案を主任会議で確認。

⑤サービス規律の遵守と心身の健康管理による活力ある教職員集団の形成

(2) 確かな学力の定着・・・1時間1時間の授業を大切に。校内研究でレベルアップ

・新学習指導要領：3つの資質・能力の育成にむけた授業実践

- 何を理解しているか、何ができるか（生きて働く知識・技能の習得）
- 理解していることをどう使うか（未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力）
- 学びを人生や社会に生かそうとする（学びに向かう力・人間性等の涵養）
- ①「学習の基盤作り」
 - 課題解決集団としての学習集団づくり→授業力向上→学力向上がある。
 - 学習規律の確立（ルール）と温かい学級経営（自己有用感：聴き合い、認め合い）
 - 相手を否定せず聴く。手を止めて、相手の方を見て最後まで聴く。
- ②「北陽スタンダード」自ら課題を発見し主体的・協働的に学ぶ学習
 - 子どもどうしの対話を通して深い学び
 - 複数の資料から考える、根拠・理由・考えを明確にして話す・聴く・問い返し
- ③授業のユニバーサルデザイン化
 - 既習を使えば“できそう”という見通し
 - 構造的な板書、考えの視覚化、
 - ICT活用（書画カメラ・タブレット：ICTを活用した授業は週案にマーカーをする）
 - 子どもが主体的に学習する・子供が活動する授業構成
 - 自分の考えを書いて、ペア・グループで全員が伝え合う授業
 - 45分の授業の中でまとめ・ふりかえりを5分確保
 - 学びの自覚化「(何が) わかった！できた！みんなと勉強して良かった！」の実感
- ④良さの共有…校内には素晴らしい実践がたくさんある
 - 教師の評価規準を高いところでそろえ、授業力向上
 - 学年会議の板書・授業ノート交流で切磋琢磨
 - 相互授業参観で「授業を見る力」UP、授業力向上
 - 「授業ふり返しシート」で、授業力向上
 - 授業ノート・自学ノート掲示で、良さの見える化
- ⑤過去問やチャレンジシートの意図的・計画的・組織的な活用
 - ・授業の中に活用問題。

(3) 豊かな心の育成…自己有用感を高める＝いじめの未然防止につながる

- ①生徒指導の三機能を活かした授業、学校生活
 - (自己存在感、自己決定、共感的人間関係)
 - ・厳しく温かい学級経営＝学習集団づくり（ルールと自己有用感）
 - 聴き合い、認め合い、学び合い、一生懸命をバカにしない学級
 - ・特別支援教育の視点を入れた生徒指導
 - ・児童理解の会の充実 発達障害特性を学び、困り感を探る
 - 良いモデルを示し、その子にあった指導・支援の継続
 - ・終わりの会での「今日のキラリさん」等、良さ見つけ
 - 丁寧であたたかい言葉を使い、広める
 - ・「挨拶、服装、時間、言葉遣い、清掃」を重点にした組織的な生徒指導
- ②人間関係力や自己有用感を高める話し合い活動の充実
 - ・学級会での話し合い
 - ・児童会活動（クラブ・委員会）の自主的、実践的取組で自己有用感UP
- ③相手の気持ちを想像する力を育てる道徳と読書の推進
 - ・考え議論する道徳授業の公開、学級懇談会で話題づくり
 - ・気持ちの言語化、教室に道徳掲示（学びの足跡）
 - ・道徳コーナーで心の見える化
 - ・家読の日(23日)、朝読書、調べ学習

(4) 健やかな体の育成…心と体を強くしよう

- ①基本的な生活習慣の定着にむけた取り組みの充実と家庭との連携
 - ・早寝・早起き・朝ごはん・適度な運動
 - ・ネットのマナー・付き合い方

・家読の日とリンクしたネットから離れる取組

- ②体育の時間での運動量の確保等、基礎的な体力の向上
・「スポチャレいしかわ」

(5) 家庭・地域との連携

- ①学習内容定着のため、各学年に応じた家庭学習の習慣化
・「学年×10分」の家庭学習「素敵な自学ノート・授業ノート」展示紹介
・読書の量と質の向上
- ②外部人材を活かした体験的な学びの場
・故郷に誇りを持てる子を育成するため地域の魅力を発見・探究する総合的な学習
「調べてまとめて伝えよう」「学校を飛び出して外へ行こう」
- ③教育方針の積極的な発信
・1ヶ月1回以上の学校・学年・学級だより
・HPで取組を紹介、新聞報道の依頼、回覧板での学校だより回覧
- ④幼保小連携、小中連携部会を中心に縦の学びを進める。

(6) 授業力・教師力の向上

- ①週案を活用しての教育課程経営力・構想力の向上
・教科横断で、効果的・効率的な学び
- ②学年を中心としたOJT体制の推進と校内研修の充実
・毎週の学年会議の充実
・若プロコーディネーターを中心にしたメンターによる企画、推進
・金沢大学と連携した学力サポートプログラムの効果的な活用
・一人年間1回以上の研究授業に外部講師の招聘(1本学年でステップアップ)
- ③「学力向上ロードマップ」によるPDCAサイクル

(7) 安全・安心な教育環境に努める

- ①整然とした学習環境の維持や教育効果のある掲示物など教育環境の充実
- ②好ましい人間関係や言葉遣いなど、児童を取り巻く言語環境の整備
- ③安全点検の徹底や保護者、地域と連携した危機管理体制の強化
- ④学校のいじめ防止基本方針に基づいた取り組みの確実な実践
・月1回の「いじめ調査」と「いじめ問題対策チーム」の常設
- ⑤想定される様々な危機(学校事故、感染症、食物アレルギー等)に対する未然防止
(校内研修を含む)と初期対応、関係機関との連携

(8) 業務適正化に向けた取組を進める

- ・週1回の定時退校日
・最終退校時刻(午後8時)
・育友会総会や学校評議員会等において取組を周知
・働き方や業務改善について学校評価に位置づけ
・一部教科担任制の導入